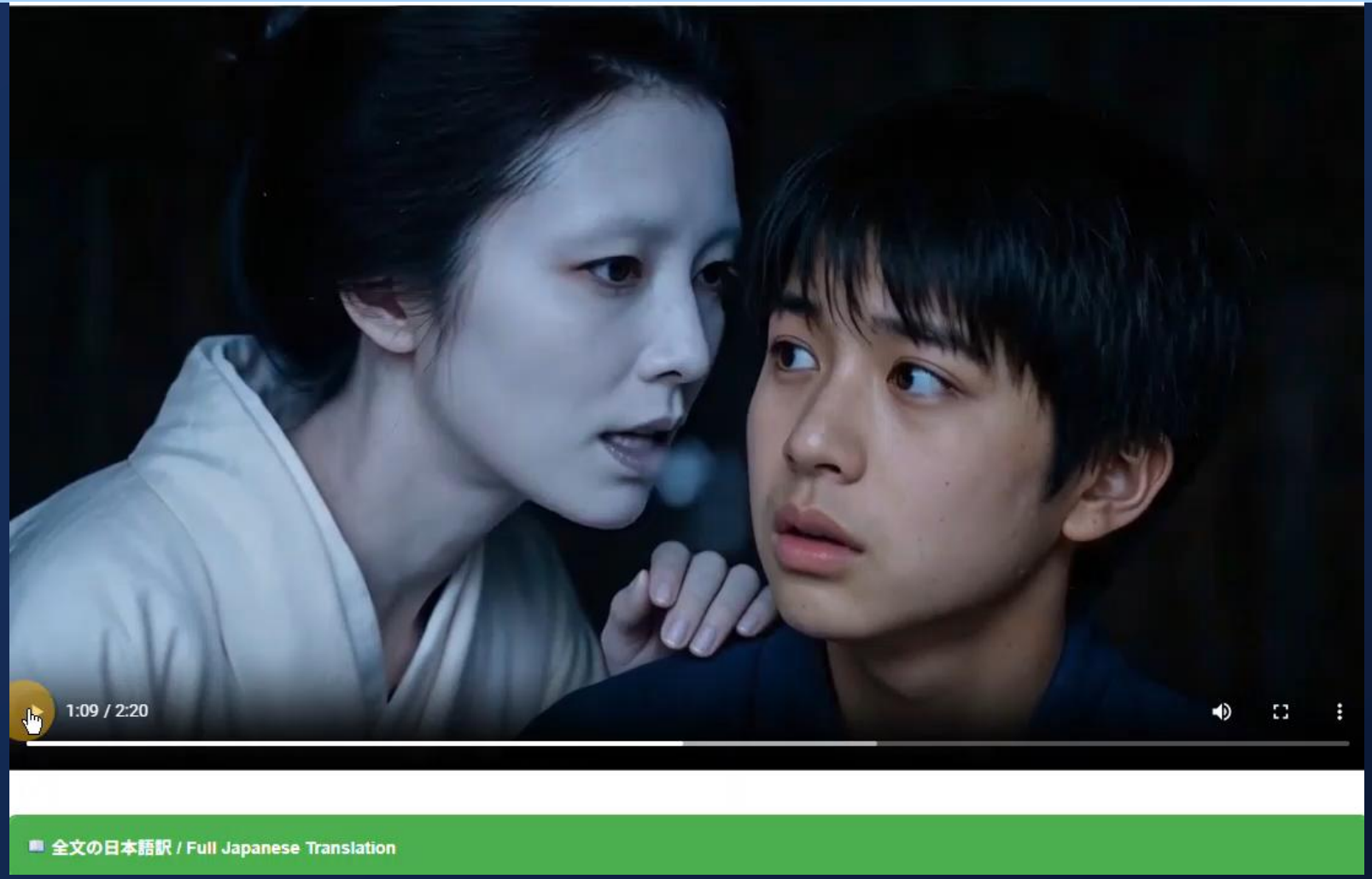


小泉八雲『怪談』「雪女」AI ビデオ

令和8年度　入学前英語教育

「へるん入試」合格者向け　｜　NHKテレビドラマ**「ばけばけ」**の放送に合わせて制作した小泉八雲の怪談教材

ただいまご覧いただいた映像は、小泉八雲『怪談』より「雪女」をAIで映像化した英語教材です。

昨年秋から本年3月にかけて、NHKテレビドラマ**「ばけばけ」**が放送されました。ちょうどその期間に入学前英語教育を実施しておりましたので、島根にしかない歴史と文化を伝える、地域に根ざした教材として、**「へるん入試」**の合格者の皆さんと分かち合いたいという思いから制作し、配信いたしました。

それでは、令和8年度の入学前英語教育の取り組みについて、ご報告いたします。

令和8年度 島根大学優良教育実践表彰

世界を知り、島根を感じ、島大を愛する

―「へるん入試」合格者向け 入学前英語教育の新たな取り組み ―

398 名の合格者
令和8年度「へるん入試」

12 週間の継続配信
2025.12.18 - 2026.3.14

61 編の独自英語教材
5ジャンル・全編オリジナル

グローバル推進機構 外国語教育センター　汪 曙東／ Michael Okamoto



応募区分：先鋭的な教育／ここにしかない学び／教育のDX化　（正課外活動・グループ）

SUMMARY

本日お伝えしたい3つのこと

1

“ここにしかない学び”の教材化

「へるん入試」の由来である小泉八雲の英語原文、島根・松江の名所、学内史跡を、外国語教育センターが独自に教材化。全61編を毎週配信した。

2

AIとDXで、読んで終わりにしない

『怪談』はAI動画＋日本語注釈＋音声で配信。感想文は毎週全員に共有し、学生自身がAIで動画を制作する段階まで到達した。

3

数字で確認できる高い参加度と満足度

感想文の投稿は12週で3,961件（投稿率83%）。修了時アンケートでは87.0%が満足、81.5%が英語学習意欲の向上を回答した。

BACKGROUND

なぜ今、入学前英語教育が重要なのか

約40%

新入生に占める
「へるん入試」入学者の割合

3か月

合格後から入学まで
生じる「学習の空白期間」

島根大学ビジョン2021 ／ 第4期中期目標・中期計画

「学生の資質・能力を多面的・総合的に評価するため導入した総合型選抜『へるん入試』も含め、特別選抜入試の入学定員を拡充する」

入学者が増える　⇒　英語力の多様化が進む

- 多様な背景・英語力を持つ合格者の基礎力を高める
- 入学後の英語授業への円滑な移行を保証する
- 自主学習の習慣を、入学前に身につけさせる

＝ 本学の教育の質保証に直結する課題

PROCESS

毎週まわし続けた、双方向の学習サイクル



①～⑤を12週間くり返す

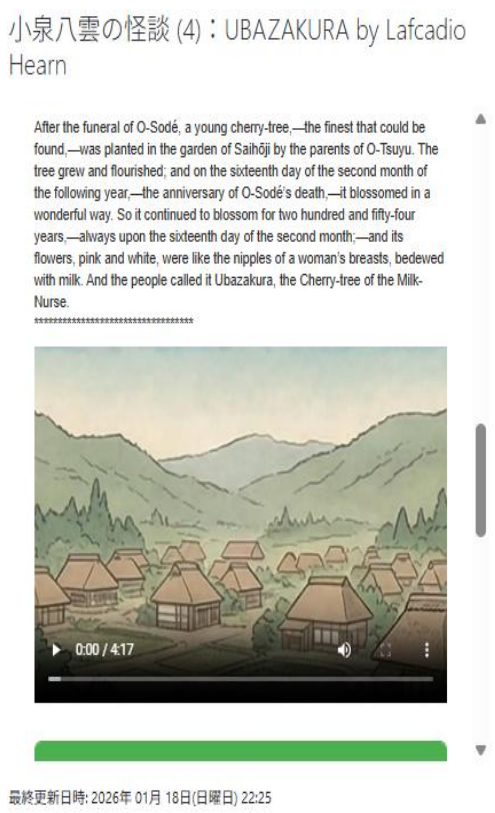
学生の感想文が翌週の題材と難易度を決める。教員が一方的に配信するのではなく、学生の反応が次のコンテンツを作る。

説明会：2025年12月18日
開始：第1週　／　終了：第12週
修了：2026年3月14日（金）

▶ Moodle「ぷれ大学」を開く

「へるん」の原点へ：『怪談』原文 × NHK「ばけばけ」× AI動画





左：NHK連続テレビ小説「ばけばけ」/右：AIで制作した『乳母桜』動画

なぜ今年、『怪談』なのか

「へるん入試」の由来である小泉八雲夫妻を題材にしたNHK連続テレビ小説「ばけばけ」の放送期間と、入学前教育の期間が完全に重なった。刊行から100年を超え著作権フリーとなった原文を、この機を逃さず教材化した。

- **原文は難しい。だから支える。**

  簡潔な日本語注釈＋英語音声＋字幕を付与し、AIで映像化。難解な内容を視覚的に理解できるようにした。

- **入試の名前が、学びの中身になる**

  「へるん入試」で入学する学生が、ヘルンその人の英語を原典で読む。入試の理念と学修内容が初めて直結した。

- **時事性を教材に取り込む速さ**

  放送中の話題を同時期に教材化できたのは、外部教材に依存せず内製しているからこそである。

HERE ONLY

“ここにしかない学び”：教員が自ら書いた島根の英語随筆



Michael Okamoto　准教授

1 外国人教員の“よそ者の目”を活かす

オカモト准教授が、宍道湖・出雲日御碕灯台・足立美術館・学内史跡などを独自の視点で英語随筆に。既製教材では絶対に手に入らない題材である。

2 読む・聴く・調べるを一体化

Notes / Vocabulary（日本語注釈）、Listening（音声）、Readingを1ページに統合。英語が苦手な合格者でも最後まで到達できる構造にした。

3 学生が最も読みたかったジャンル

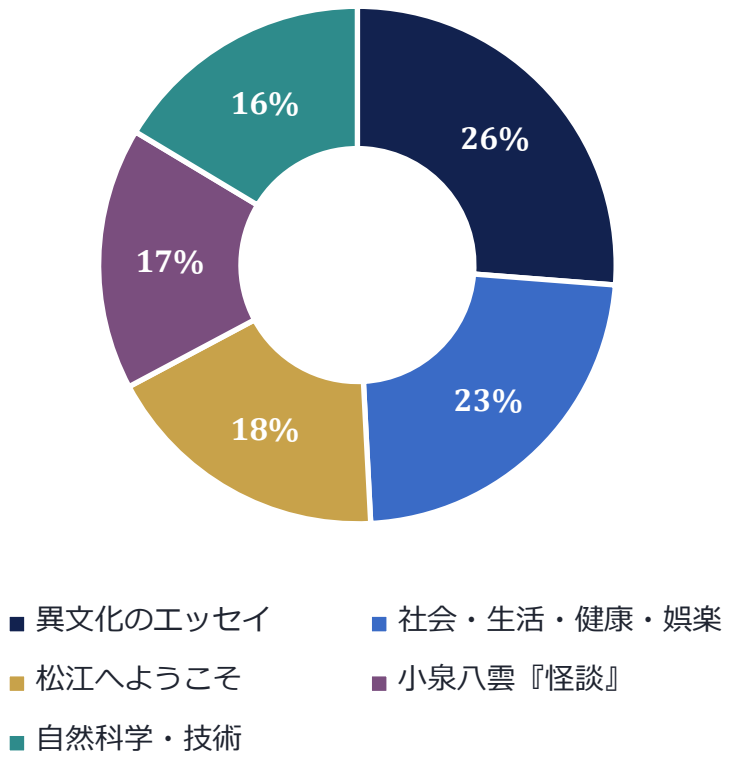
修了時アンケートで「最も読みたい種類のエッセイ」の第1位。回答者の33.7%がこのシリーズを選択した。

▶ 実際の教材ページを見る

CONTENTS

多様な興味に応える、全5ジャンル61編

コンテンツの種類別発信数（全61編）



文理融合・SDGs・STEAMまで意識的にバランスを取った

異文化のエッセイ	16編
社会・生活・健康・娯楽	14編
松江へようこそ ― 歴史と自然に囲まれた学びのまち	11編
小泉八雲『怪談』	10編
自然科学・技術（STEAM）	10編

設計の意図

「へるん入試」合格者は学部も興味も特技も多様である。特定分野に偏らせず、どの学生にも「自分の関心に触れる週」が必ず来るよう、12週分の配信計画を組み立てた。

DX

学びの主役が交代する ― 合格者がAIで動画を制作・投稿

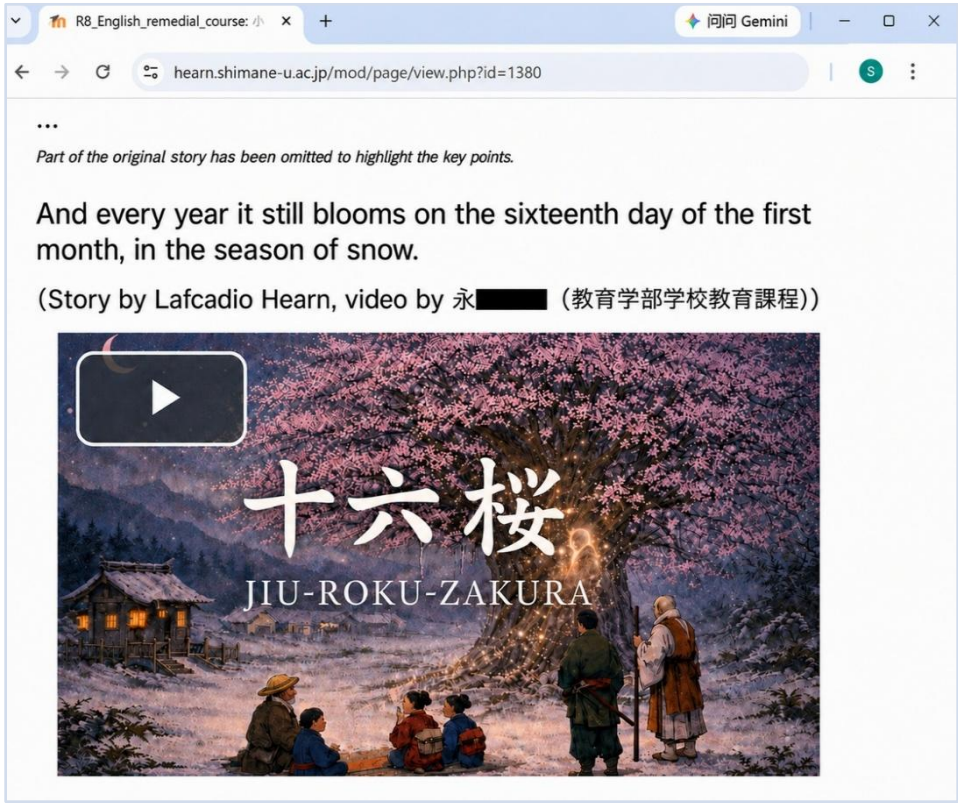
作り手になる

小泉八雲の原文を読み、学生が自分でAIを活用して映像化し、Moodleへ投稿。教材が学生の作品によって拡張された。

原文を読む ▶ **AIで映像化** ▶ **Moodleへ投稿**

入学前に、消費者から制作者へ。

文部科学省が推進する「教育のDX」を入学前教育の段階で具体化した一つの実践であり、今後は入学後の授業科目へとつなげていく。



教育学部に合格したN さんが、小泉八雲『十六桜』の英語原文を読み、自らAIを用いて制作・投稿した動画（クリックで実ページへ）

RESULTS

修了時アンケート：270名回答（回答率68%）

87.0% プログラム全体に満足

とても満足 36.3% ＋ やや満足 50.7%

81.5% 英語学習意欲が向上

大きく高まった 22.2% ＋ 少し高まった 59.3%

58.1% 「英文読解力」が伸びた

最も伸びた力の第1位（複数回答含む）

33.7% 人気第1位は「松江へようこそ」

最も読みたい種類のエッセイとして選択

担当教員は毎週の感想文と各エッセイの評価を全て確認し、学生の関心と理解度に応じて翌週の題材と難易度を調整した。数字は、この毎週の手当ての積み重ねの結果である。

STUDENT VOICE

学生の言葉：英語の力と、島根への気持ち

Mさん（Week8／和文）

今月から自由登校期間となり、毎朝朝ドラである「ばけばけ」を見るのが日課になっています。その舞台となっている松江の素敵な風景を入試ぶりに訪れ、学んでいくことが楽しみで仕方ありません。
私は国語科の教員を目指しています。教える側になるにあたって、八雲さんを始めとする沢山の文学作品や地域に根ざした文学作品に触れていきたいです

—テレビドラマ「ばけばけ」を見た合格者

Mさん（Week10／英文）

I read "Shimane University Museum – Ashikaru" and "A Grave on Matsue Campus?!?". I was very surprised to learn that there are historical things on Shimane University's campus, such as a 6,000-year-old wooden boat and the Sugata Hill Kofun, which was built in the late 5th century.
I am interested in things that let me feel history, so I want to go and see them when I start going to university in April. I would also like to visit the university museum, as the essay recommended.

—島根大学に関するエッセイを読んだ合格者

Eさん（Week12／和文）

今まで縁のなかった島根県に住むことになり、不安や戸惑いがあったけれど、「松江へようこそ：歴史と自然に囲まれた学びの街」を読んで、島根県で色々なことを学習したいと思うようになった。自分の知らない島根県について知り、より良い学びをしたいと思った。

—県外出身の合格者

〇さん（Week12／英文）

Through this program, I was able to improve my English reading and writing skills. I'm not good at English, but I worked hard every week.

—英語が苦手な合格者

自由記述261件の感情分析：ポジティブ 60.5%　／　「島根・松江」への言及 31.8%　／　改善要望はわずか 4.2%

STUDENT VOICE

学生の言葉：英語の力と、島根への気持ち

“

Eさん（Week12／和文）

今まで縁のなかった島根県に住むことになり、不安や戸惑いがあったけれど、「松江へようこそ：歴史と自然に囲まれた学びの街」を読んで、島根県で色々なことを学習したいと思うようになった。自分の知らない島根県について知り、より良い学びをしたいと思った。

—県外出身の合格者

自由記述261件の感情分析：ポジティブ 60.5%　／　「島根・松江」への言及 31.8%　／　改善要望はわずか 4.2%

BEYOND

英語で読んだ場所へ、実際に立つ ― 入学後への接続

入学前（12月～3月）

英語を通じた「間接体験」

宍道湖、出雲日御碕灯台、学内史跡、総合博物館アシカル。合格者は英語の随筆でこれらを知った。

反響

「入学が待ち遠しい」「舞台を必ず見に行きたい」

感想文に、こうした声が数多く寄せられた。教材が学生の行動意欲を生んだ。

入学後（6月）

実体験としてのキャンパスツアー

「しまだい留学ウィーク」で、島根大学ミュージアム・国際センターと連携し学内史跡を巡る特別ツアーを実施。「へるん入試」合格者も参加した。

入学前教育で終わらせず、入学後の具体的な行動と実体験へ昇華させた。地域・社会連携目標「島根に愛着を持つ人材の育成・定着」に直接つながる成果である。

▶ 関連記事（外国語教育センターHP）

“学内史跡と総合博物館を巡るキャンパスツアーを実施しました”

NEXT

見えている課題と、来年度に向けた3つの改善

現時点の課題：学習意欲の長期的な維持、および「実際に英語力がどれだけ伸びたか」を客観的に示せていないこと

1 入学後の評価と表彰

課題に真摯に取り組んだ合格者に対し、入学後の表彰などのインセンティブを検討する。努力を可視化し、報いる仕組みをつくる。

2 追跡調査と継続教育体制

外国語教育センターと入試センター等の学内各部門が連携し、入学後の「へるん入試」合格者の英語学修状況を追跡、適切な支援につなげる体制を構築する。

3 効果の客観的・定量的な評価

今年度は日程調整とオンラインテストの公平性確保が難しく、事前・事後テストは見送った。公平性を担保できる試験形式を検討し、プレイスメントテスト等を開始前後に実施する。

世界を知り、島根を感じ、島大を愛する

Michael Okamoto 先生のメッセージ(ビデオ)

入学前の3か月を、島根大学で学び始める時間に変えた

398 名の合格者に配信

12 週間・毎週配信

61 編の独自教材



ご清聴ありがとうございました。

汪 曙東（外国語教育センター 教授）　wangsd@soc.shimane-u.ac.jp

マイケル・オカモト（外国語教育センター 准教授）　mikeokamoto@soc.shimane-u.ac.jp